

# 教えて！ ドクター Q&A

(株)宣通 (052) 979-1600 広告

**Q** 高血圧で50代の頃から薬を飲んでいます。もう飲まなくてよくなることはないのでしょうか。



**A** 高血圧症の発症、進展には複数の遺伝子と環境因子が関係します。したがって治療は環境因子の多くの部分を占める生活習慣の修正から始まります。しかし、生活習慣の修正だけで目標血圧を達成できる方は少なく、大部分の方には薬物療法が必要となります。生活習慣の修正は降圧薬の効果を高め、薬剤数と用量とを減じることができます。でも、降圧薬を開始するための効果は変わりません。降

には、医師と患者の双方が長期的に努力を継続することが必要であります。このような努力により、適正な生活習慣の観察を条件に、休薬を試みても良いでしょう。休薬後の正常血圧維持率は3～74%で、報告により、かなり異なります。正常血圧を維持できた方の特徴は、軽度の高血圧、若年者、正常体重、低塩分摂取、非飲酒者、1剤のみの服用などです。高血圧の治療の目的は標的臓器障害と脳心血管病の予防であります。休薬後血圧が上昇して脳心血管病の発症、進展をきたさないように慎重な経過観察が必要であります。

名古屋大学大学院医学研究科修了。医学博士。米国ニューヨーク市Francis Delafield Hospital、Harlem Hospital Center外科レジデント。ミネソタ州Mayo Clinic胸部心臓血管外科留学。金沢医科大学心臓血管外科講師、名古屋大学胸部外科助手、名古屋第一赤十字病院胸部外科部長。1997年4月より現職。



院長 早瀬 修平  
(はやせ希望クリニック)